

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・産地独自の取組により多様な品目の輸出が試みられてきたものの、輸入規制や規格対応、鮮度保持を含むサプライチェーン構築の課題から、香港やシンガポールなど規制が緩やかな国を除き、継続的な取引には至っていない。
- ・県内には中京圏という大消費地が広がり、関東圏や関西圏へのアクセスにも優れているため、これまでは国内出荷による安定経営が可能であったが、人口減少による国内需要の縮小が見込まれる中、輸出を重要な販路として位置づけ、新たな海外市場の開拓を進めることが喫緊の課題となっている。
- ・輸出需要の増加に対応するためには、既存の生産や流通体制では限界があり、組織的な連携と生産体系の見直しが必要である。

【課題】

- ・県を中心に、JA、関係市町、輸出商社、輸出意欲のある産地などが連携する推進体制を構築し、輸出量の増加と輸出向け栽培の拡大を図る必要がある。
- ・輸出に適した品種選定や産地ルールの導入により、生産体系を転換し、安定供給と品質保持の両立を図ることが求められる。
- ・参画産地の輸出品目における主な課題：

①輸送方法、鮮度保持技術の検証（イチゴ、メロン、キャベツ、れんこん）
 ②周年供給に向けた夏季高温対策（大葉、れんこん、エディブルフラワー、菊花、グロリオサ）
 ③長期貯蔵、輸出規格対応（梨、桃、れんこん）
 ④病害虫防除、生産者確保に向けた栽培マニュアル整備（キク、グロリオサ、スイートピー等花き）
 ⑤米国、台湾の残留農薬規制への適合性確認（食用品目共通）
- ・輸送コストの削減と効率化が期待される名古屋港や中部国際空港などの地元インフラを活用した輸送体制の構築が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

参画産地	輸出品目	主な取組内容	対象国			
			シンガポール	香港	米国	台湾
豊橋田原 広域農業 推進会議 [構成員] 豊橋市 田原市 JA豊橋 JA愛知みなみ (青果農産部)	イチゴ	・県ブランド「愛きらり」の輸出拡大に向けたウレタン敷梱包による航空便輸送実証を実施 ・4～6月の輸出拡大に向けた鮮度保持輸送方法を検討	○	○	○	○
	メロン	・輸送コスト削減を目的とした船便輸送実証を実施 ・高温期の品質保持に向けた鮮度保持輸送方法を検討	○	○	○	○
	キャベツ		○	○	○	○
豊橋温室 園芸農業 協同組合	大葉	・周年での安定供給を目的とした遮光・遮熱資材によるハウス内温度抑制の栽培実証を実施 ・品質確保及び輸送コスト低減に向けた鮮度保持輸送方法の検討及び空輸実証を実施	○	○	○	○
	エディブルフラワー		○	○	—	○
	菊花		○	○	—	○
JAあいち海部	れんこん	・輸送コスト削減を目的とした船便輸送実証を実施 ・市場関係者による品質評価及び市場ニーズ調査を実施	○	○	○	○
JAあいち豊田	自然薯	・防除暦について米国・台湾の残留農薬基準との適合状況を確認	○	○	○	○
	梨	・春節需要への対応に向けた氷温貯蔵による長期貯蔵及び貯蔵果実の輸送実証を実施 ・米国向け輸出仕様の栽培体系確立に係る栽培実証を実施	○	○	○	○
	桃	・中秋節需要への対応に向けた氷温貯蔵による長期貯蔵及び等階級別の桃の輸送実証を実施 ・輸出向け高品質果実の安定生産に向けた有機質配合肥料の施用実証を実施	○	○	—	○
食用品目共通		防除暦について米国・台湾の残留農薬基準との適合状況を確認	—			

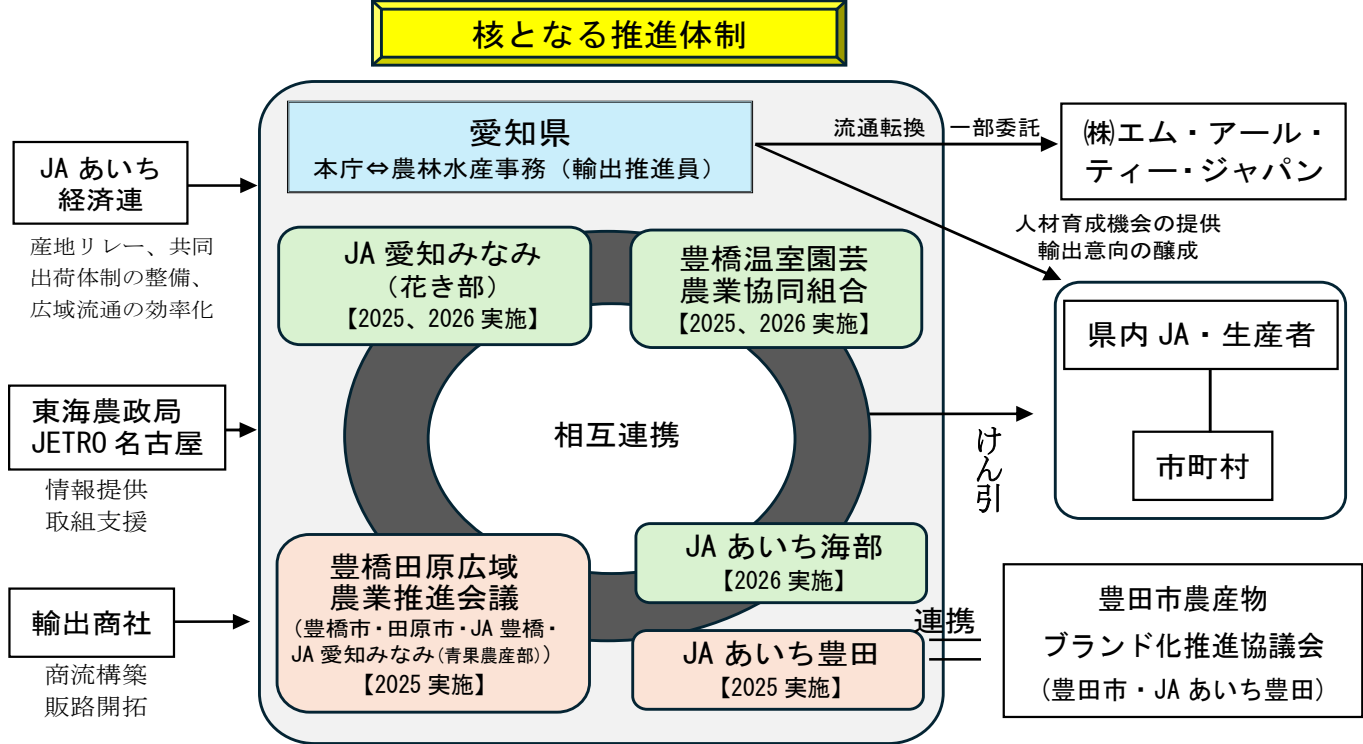
輸出事業計画
※申請者名：愛知県 品目：野菜・果樹及び花き

参画産地	輸出品目	主な取組内容	対象国			
			シンガポール	香港	米国	台湾
JA愛知 みなみ (花き部)	キク	・米国向け輸出仕様の栽培体系確立及び園地登録を実施 ・米国向け輸出の定着に向けた市場評価及び需要開拓を実施	-	-	○	-
	グロリオサ	・担い手の確保及び生産基盤の強化を実施 ・安定供給に向けた高温対策及び生産性向上のための栽培実証を実施	○	○	○	○
	スイートピー	・先進産地調査による生産量拡大方策の検討を実施 ・安定供給に向けた生産性向上のための栽培実証を実施	○	○	○	-
	その他花き	・アルストロメリア及びバラを中心に、市場関係者・流通業者へのヒアリングを実施	-	○	-	-

- 【物流】
- ・名古屋港及び中部国際空港を活用した効率的な輸出ルートの構築
 - ・輸送コスト削減及び品質保持に向けたコールドチェーンの実態調査を実施
 - ・品目及び輸出先に応じた輸送モデルの確立に向けた輸送実証を実施
- 【販売】
- ・輸出拡大に向けた市場性調査及び消費者ニーズ調査を実施
 - ・県産農産物の認知度向上及び販路開拓に向けた魅力発信並びに現地バイヤーとの意見交換を実施
- 【その他】
- ・輸出推進体制の構築及び関係機関との広域連携を実施
 - ・輸出推進員、生産者及びJA職員を対象とした輸出人材の育成を実施

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

「GFP推進会議」による輸出推進体制図



4. 輸出目標額

	現状(計画策定時) 2023年度及び2024年度		目標 2027年度	
	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
野菜・果樹	24,082千円	7,947kg	37,348千円	26,290kg
花き	6,327千円	107,200本	25,700千円	127,000本
計	30,409千円		63,048千円	
輸出先国	シンガポール、香港、米国、台湾		シンガポール、香港、米国、台湾	